

福山市・沼隈町合併建設計画

(まちづくりプラン)

福山市

2020年(令和2年)3月変更

目 次

第1 序 論	1
1 合併の必要性	1
(1) 中央集権型行政システムから地方分権型システムへの転換	
(2) 日常社会生活圏の広がり	
(3) 広域化と多様化・高度化するニーズへの対応	
(4) 厳しい財政状況への対処	
2 合併の効果等	3
(1) 合併の効果	
ア 地域づくり・まちづくり	
イ 住民サービスの維持・向上	
ウ 行財政運営の効率化と基盤強化	
(2) 合併の歴史と両市町の一層の発展	
3 計画策定の方針	5
(1) 計画の趣旨	
(2) 計画の構成	
(3) 計画の期間	
第2 両市町の概況	6
1 位置と地勢	6
2 人口と世帯等	7
第3 まちづくりの基本方針	9
1 新しいまちづくりと沼隈町地域の位置付け	9
2 まちづくりの方向	10
(1) みんなで創る舞台のあるまちづくり	
(2) 支えあうあたたかな声のあるまちづくり	
(3) 未来への夢を育むまちづくり	
(4) 豊かな自然と共生する快いまちづくり	
(5) 交流と躍動のまちづくり	

3 沼隈町地域の地域別の整備方針	11
(1) 自然共生ゾーン	
(2) 地域中核ゾーン	
(3) 臨海ゾーン	
第4 まちづくり計画	13
1 みんなで創る舞台のあるまちづくり	13
2 支えあうあたたかな声のあるまちづくり	15
3 未来への夢を育むまちづくり	16
4 豊かな自然と共生する快いまちづくり	18
5 交流と躍動のまちづくり	20
第5 財政計画	23
第6 事業費総括表	25

第1 序 論

1 合併の必要性

福山市は、瀬戸内の十字路に位置し、古くは城下町として、また地場の繊維産業を基盤とする地方都市として発展してきました。これまで、備後工業整備特別地域や福山地方拠点都市地域の指定、また山陽新幹線や山陽自動車道、西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）の開通など、交通網の発達と相まって着実に発展してきました。さらに、1998年（平成10年）4月には中核市へと移行し、備後都市圏の中核都市として地域全体の発展をけん引していく役割を担っています。

沼隈町は、豊かな自然に恵まれ、天然の良港を活かし古くから造船業を中心に栄え、長い歴史を背景に独自の伝統や文化・産業を育て発展してきました。

両市町は、消防組合や広域行政事務組合等により広域行政を推進しており、また、通勤、通学、商圈等の日常生活圏においても一体の地域を形成しています。

住民に最も身近な基礎自治体である市町村には、住民の日常生活圏の拡大や少子・高齢化の進行などにより多様化・高度化・広域化する行政課題に対応し、生活圏に合致した、より質の高いきめ細やかな行政サービスの展開を図ることが求められています。

このような状況の中で、両市町においては、合併問題を具体的に論議するため、両市町議会の議決を経て2003年（平成15年）10月に福山市・沼隈町合併協議会を設置し、合併に関する調査・研究に積極的に取り組んできました。

社会のあらゆる分野において大きな変革の時を迎えている今日、両市町が将来にわたって持続可能な住民サービスの提供を図り、住民の福祉向上を目指すためには、合併は有効な手段となるものと、合併の必要性が指摘されていますが、合併はあくまで手段であり、合併後の住民福祉の維持向上を図ることが重要です。

また、今後、更に激しさが増すことが予測される都市間競争に立ち向かうには、活力と魅力ある地域の形成を図ることが必要であり、合併により地域内の総合的な事業調整を行う中で、交通アクセス整備や沿線整備、生活基盤整備などを促進し、都市機能の向上・強化を図っていくことが求められます。

(1) 中央集権型行政システムから地方分権型システムへの転換

「住民に身近な行政は住民に身近な市町村で」という考え方により「地方分権」が進んでいます。これからの市町村は、これまでのように国や県に頼ることなく、自らの判断で決定し、自らが責任を持つことがますます求められてきます。そのためには、小規模の町村では十分な対応を行うことが困難で、行政体制や財政基盤もある程度の規模が必要になってくると考えられています。

中核市である福山市の行政体制と財政基盤に合流することは、沼隈町にとっては、将来にわたり行政サービスの水準を維持・向上していくために、有効な選択肢になり得るものです。福山市においては、沼隈半島南部の拠点である沼隈町と合併し、内海町地域から市の南西部にかけての一体的なまちづくりを進めることにより、都市としての魅力の向上が期待できます。

(2) 日常生活圏の広がり

両市町は、近年の交通通信手段の発達に伴う社会経済活動の著しい進展により、通勤・通学を始め、医療・買物行動・レクリエーション等、相互依存の関係が高まってきており、生活実感からは「同じまち」ともいえるほどになっています。

こうした中、地域住民は日ごろ、市町の境界を意識することなく生活しているのが現状です。むしろ、市町の境界を意識するとすれば、日常の生活圏と行政の区域のずれからくる不便さを感じる時です。こうしたことから、日常生活圏と行政の区域を一致させて、一体的・総合的なまちづくりを進め、住民の利便性を向上させることが求められています。

(3) 広域化と多様化・高度化するニーズへの対応

社会経済活動の広域化に伴って、行政区域を越え、単独の市町だけでは対応することが困難な行政需要が次々と出てきています。例えば、幹線道路の整備、ごみ処理を始め環境問題への対応、少子・高齢化への対応など、単独市町だけでは限界があります。また、高度情報化や国際化の進展などによる新たな課題や、福祉、環境対策など高度な専門性の要求も一層高まってきます。

このため、両市町が合併をすることにより、一体的・計画的に行政を推進し、広域的かつ効率的なまちづくりを進めるとともに、福祉・衛生、生活環境など住民に身近な行政サービス分野の充実を図っていく必要があります。

(4) 厳しい財政状況への対処

バブル経済の崩壊と、それに続く景気の長期低迷により、税収を始め歳入の伸びが見られず、地方財政は大変厳しい状況にあります。また、今後とも高い経済成長を望むことはできない状況です。こうした中、大きく変化する社会経済情勢に適切に対処し、一定水準の行政サービスを提供していくためには、簡素で効率的な行政体制の実現や財政基盤の強化を図っていかなければなりません。そのためには合併が有効な方策となります。

しかし、合併さえすれば、財政が健全化するというだけでなく、「最少の経費で最大の効果を挙げる」自治体の大原則に立ち返り、行財政改革を行っていかなければなりません。

2 合併の効果等

(1) 合併の効果

ア 地域づくり・まちづくり

広域的な視点に立った体系的な道路網や、上下水道などの都市基盤の整備により、計画的で一体的なまちづくりを重点的・効果的に実施することができ、環境問題を始め広域的な取組が必要な課題について、有効な施策を効率的に推進することができるようになります。

また、都市規模の拡大や機能の分担・補完により都市としての魅力が向上し、企業進出や若者の定着などが期待されます。

イ 住民サービスの維持・向上

沼隈町地域においては、住民ニーズの多様化、高度化、広域化に対応した専門的で、高度な行政サービスが、特に、従来採用が困難であったり、十分確保できなかった保健・福祉・農業・土木・建築等の分野で、専門職員によって自ら直接提供できるようになります。また、福山市においては、今後、県からの権限移譲による機能の拡充が期待でき、より幅広い行政サービスを展開することも可能になります。

さらに、各種公共施設の利用については、地域全体のものとして広域的な利用が可能となるとともに、行政サービスの提供区域が広域化することで、窓口サービスが勤務地などで利用できるようになるなど、住民の利便性が向上します。

ウ 行財政運営の効率化と基盤強化

合併により、重複する内部管理部門の効率化が図られ、行政サービスや事業部門に職員が相対的に多く配置されるとともに、職員数を全体的に少なくすることができますため、サービスレベルを維持・向上しながら人件費を減らすことができます。

また、合併による財政規模の拡大により、財政基盤が強化され、各種事業の計画的な実施が可能となるとともに、広域的な観点から公共施設を効率的に配置でき、類似施設の重複を避けることができます。

総じて、事務処理や事業遂行に当たって、住民1人当たりの職員数や管理経費が節減されるという「スケールメリット」が働き、より少ない経費での行政サービスの提供が可能となります。

(2) 合併の歴史と両市町の一層の発展

福山市は過去に近隣の29市町村と合併し、沼隈町は山南と千年の両村が合併し、それぞれが発展してきた歴史があります。

福山市は、中核市に指定され、文字どおり備後都市圏の中核都市となっていますが、合併を行うことで、更に活力を増し、「瀬戸内の交流拠点都市」として一層の発展が期待されます。

沼隈町にとっては、合併に伴う多数の新規行政制度の適用や、合併建設計画の実施などによって、住民サービスの維持・向上や福山市と一体となった地域発展を実現することができます。

【福山市と沼隈町の合併史】

福 山 市		沼 隈 町	
合併年月日	事 項	合併年月日	事 項
1916年（大正5年） 7月1日	市制施行	1955年（昭和30年） 3月31日	山南村，千年村合併により町制を施行
1933年（昭和8年） 1月1日	10か村（川口，手城，深津，奈良津，吉津，木之庄，本庄，神島，佐波，草戸）を編入		
1942年（昭和17年） 7月1日	2か村（山手，郷分）を編入		
1956年（昭和31年） 9月30日	10町村（引野，市，千田，御幸，津之郷，赤坂，瀬戸，熊野，水呑，鞆）を編入		
1962年（昭和37年） 1月1日	深安町を編入		
1966年（昭和41年） 5月1日	松永市と合併		
1974年（昭和49年） 4月1日	芦田町を編入		
1975年（昭和50年） 2月1日	2か町（加茂，駅家）を編入		
2003年（平成15年） 2月3日	2か町（内海，新市）を編入		

3 計画策定の方針

(1) 計画の趣旨

この計画は、沼隈郡沼隈町を廃し、その区域を福山市に編入することに伴い、第三次沼隈町長期総合計画及び第三次福山市総合計画を踏まえて、福山市と沼隈町の合併に伴う沼隈町地域を中心とする「まちづくりの基本方針」を定めるとともに、総合的な「まちづくり計画」を策定することにより、両市町の速やかな一体化を促進し、住民福祉の向上と地域発展に資する具体的な施策の方向を示すものです。

(2) 計画の構成

この計画は、福山市と沼隈町の合併に伴う沼隈町地域を中心とするまちづくりの基本方針、基本方針を実現するためのまちづくり計画及び財政計画で構成します。

(3) 計画の期間

まちづくりの基本方針は、長期的展望に立ったものとし、まちづくり計画及び財政計画は、2005年度（平成17年度）から2024年度（令和6年度）までの20か年度とします。

第2 両市町の概況

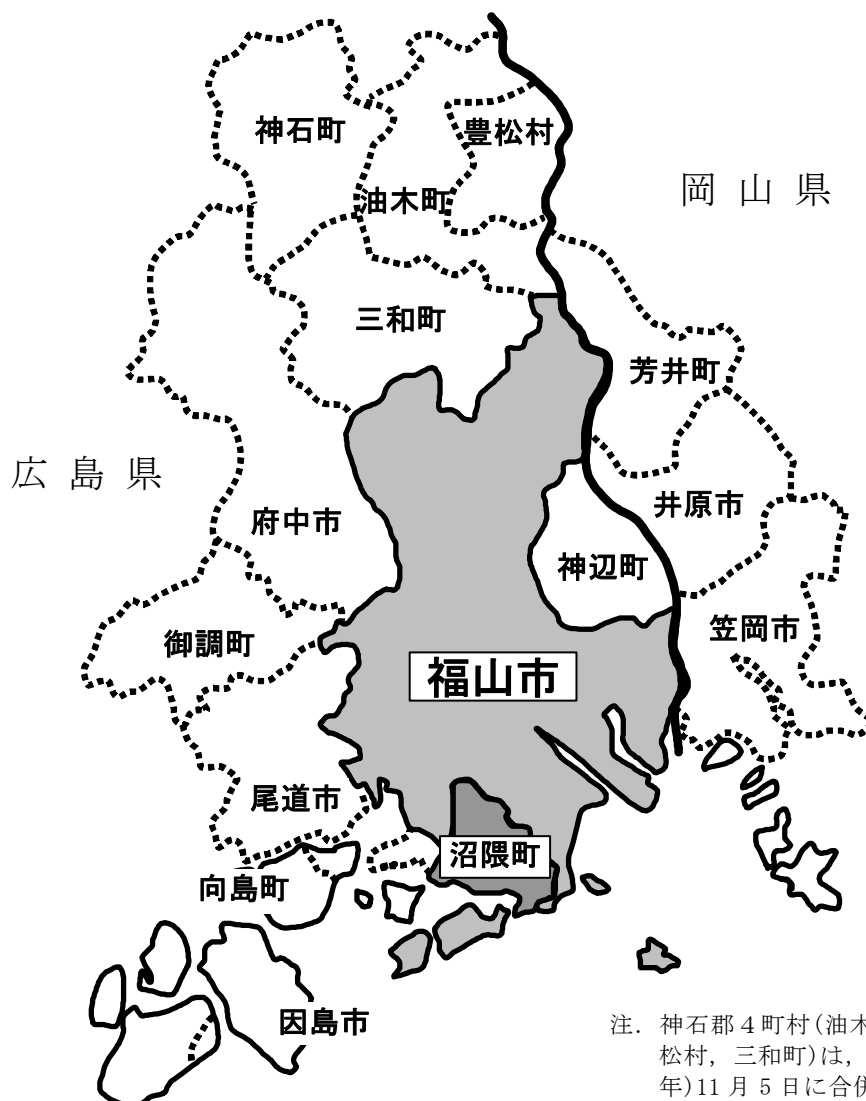
1 位置と地勢

福山市と沼隈町は、広島県の東南部、瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置し、北側は神石郡三和町に隣接し、南側は愛媛県に相對し、東側は深安郡神辺町、岡山県井原市・笠岡市、西側は府中市、御調郡御調町、尾道市に面しています。

面積は、福山市が430.30km²、沼隈町が30.93km²で、合計461.23km²となります。

両市町の地域は、北部、西部、南部に標高400～500m級の山系を有し、その山系を縫って西北から南東に貫流する一級河川芦田川の水系を中心に堆積された広大な平地部が広がり、市街地を形成しています。特に、南部山系は瀬戸内海の広がりを見望でき、海上に浮かぶ多島景観と合わせ、瀬戸内海国立公園の景勝地を形成しています。

● 位置図



注. 神石郡4町村(油木町, 神石町, 豊松村, 三和町)は、2004年(平成16年)11月5日に合併し、神石高原町となる予定です。

2 人口と世帯等

国勢調査による2000年（平成12年）の両市町の総人口を見ると、福山市は403,915人、沼隈町は12,632人で、合わせると416,547人となります。1980年（昭和55年）と2000年（平成12年）を比較すると、福山市は微増、沼隈町は減少傾向にあります。総ずれば、着実に増加してきています。

世帯数は、福山市では増加傾向で、沼隈町でも近年は微増となっていますが、1世帯当たりの人口の1980年（昭和55年）と2000年（平成12年）を比較すると、福山市は3.38人から2.82人に、沼隈町は3.51人から3.10人と、両市町とも年々核家族化が進行しているといえます。

産業別就業者の構成比は、1980年（昭和55年）には福山市では第3次産業が沼隈町では第2次産業がそれぞれ1位となっていました。2000年（平成12年）には、沼隈町も第3次産業が1位になるなど、両市町とも第1次産業と第2次産業が年々減少し、代わって第3次産業就業者が増加傾向にあります。

【人口と世帯の推移】

区 分	1980年(昭和55年)		1985年(昭和60年)		1990年(平成2年)		1995年(平成7年)		2000年(平成12年)			
	実績値	構成比 (%)	実績値	構成比 (%)	実績値	構成比 (%)	実績値	構成比 (%)	実績値	構成比 (%)		
総人口	福山市	374,074	100	388,147	100	392,401	100	400,576	100	403,915	100	
	沼隈町	14,403	100	14,510	100	13,953	100	13,238	100	12,632	100	
	合計	388,477	100	402,657	100	406,354	100	413,814	100	416,547	100	
内 訳	0～14歳	福山市	95,452	25.5	91,325	23.5	77,631	19.8	68,488	17.1	63,165	15.6
		沼隈町	3,386	23.5	3,267	22.5	2,750	19.7	2,157	16.3	1,785	14.1
		合計	98,838	25.4	94,592	23.5	80,381	19.8	70,645	17.1	64,950	15.6
	15～64歳	福山市	245,148	65.5	257,883	66.4	267,457	68.2	275,175	68.7	272,446	67.5
		沼隈町	9,415	65.4	9,453	65.1	9,127	65.4	8,633	65.2	8,109	64.2
		合計	254,563	65.5	267,336	66.4	276,584	68.1	283,808	68.6	280,555	67.4
	65歳以上	福山市	33,346	8.9	38,901	10.0	46,476	11.8	56,697	14.2	67,944	16.8
		沼隈町	1,602	11.1	1,790	12.3	2,076	14.9	2,448	18.5	2,738	21.7
		合計	34,948	9.0	40,691	10.1	48,552	11.9	59,145	14.3	70,682	17.0
世帯数	福山市	110,673	—	116,931	—	124,411	—	135,313	—	143,039	—	
	沼隈町	4,102	—	4,155	—	4,032	—	4,040	—	4,073	—	
	合計	114,775	—	121,086	—	128,443	—	139,353	—	147,112	—	
1世帯当たりの人員	福山市	3.38	—	3.32	—	3.15	—	2.96	—	2.82	—	
	沼隈町	3.51	—	3.49	—	3.46	—	3.28	—	3.10	—	
	合計	3.38	—	3.33	—	3.16	—	2.97	—	2.83	—	

※ 実績値は、国勢調査結果

※ 総人口には、年齢不詳分を含む。

【産業別就業者人口の推移】

区 分		1980年(昭和55年)		1985年(昭和60年)		1990年(平成2年)		1995年(平成7年)		2000年(平成12年)		
		就業者数	構成比 (%)	就業者数	構成比 (%)	就業者数	構成比 (%)	就業者数	構成比 (%)	就業者数	構成比 (%)	
就 業 者	福山市	179,928	100	187,506	100	194,195	100	203,996	100	200,224	100	
	沼隈町	7,237	100	6,968	100	6,846	100	6,538	100	6,256	100	
	合 計	187,165	100	194,474	100	201,041	100	210,534	100	206,480	100	
内 訳	第1次産業	福山市	8,609	4.8	8,561	4.6	5,860	3.0	5,722	2.8	4,278	2.1
		沼隈町	665	9.2	493	7.1	424	6.2	403	6.2	402	6.4
		合 計	9,274	5.0	9,054	4.7	6,284	3.1	6,125	2.9	4,680	2.3
	第2次産業	福山市	75,937	42.2	76,838	41.0	79,590	41.0	79,768	39.1	72,162	36.0
		沼隈町	3,735	51.6	3,489	50.1	3,182	46.5	2,783	42.6	2,410	38.5
		合 計	79,672	42.6	80,327	41.3	82,772	41.2	82,551	39.2	74,572	36.1
	第3次産業	福山市	95,301	53.0	101,454	54.1	108,097	55.7	117,161	57.4	121,583	60.7
		沼隈町	2,828	39.1	2,974	42.7	3,230	47.2	3,336	51.0	3,438	55.0
		合 計	98,129	52.4	104,428	53.7	111,327	55.4	120,497	57.2	125,021	60.5

※ 就業者数は、国勢調査結果

※ 就業者数には、分類不能を含む。

○将来人口

福山市においては、微増傾向は今後も続きますが、ピークは2012年(平成24年)～2014年(平成26年)ごろと予測されます。年齢階層別には、年少人口(0～14歳)の構成比の低下や高齢人口(65歳以上)の増加が見込まれます。特に団塊の世代の高齢化に伴い、高齢人口の占める割合が急速に増加すると見込まれます。沼隈町においては、人口の減少傾向や少子・高齢化の進行は今後も続く予測されます。

このため、合併により地域内の総合的な事業調整を行う中で、交通アクセス整備や沿線整備、生活基盤整備などを促進し、都市機能の向上・強化を図るなど、合併効果により、両市町の定住人口のみならず、交流人口の増加を図っていくことが求められます。

第3 まちづくりの基本方針

1 新しいまちづくりと沼隈町地域の位置付け

福山市及び沼隈町を含む備後都市圏は、山陽新幹線、山陽自動車道、西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）などが交わり、中国・四国地方における交通結節点として拠点性の高い圏域です。さらに、今後、中国横断自動車道尾道松江線が整備されると、山陰・山陽・四国地方における東西軸・南北軸の交通結節点としての位置付けが飛躍的に高まることが予想されます。

こうした中、福山市は、備後都市圏の中核都市として、「輝く瀬戸内の交流拠点都市 個性豊かなばらのまち 福山」を将来都市像に、拠点性が高く自律的發展力のあるまちづくりを推進しており、人、モノ、情報が集まり、名実ともに市民に愛され、豊かさが実感できる瀬戸内の交流拠点都市の実現を目指すことが期待されています。

このような福山市に対し、沼隈町地域の位置付けは、福山市との速やかな一体化を図り、生活、文化、産業機能などの都市機能の一部を分担し、あるいは補完していくことにあります。

沼隈町地域と福山市地域を結ぶ交通ネットワークは、主要地方道福山沼隈線、鞆松永線が基幹路線となり、沼隈横田港線が補助幹線となって福山市との間を結んでいます。

沼隈町地域は、昔から海上交通の要衝であり、源平合戦にまつわる多くの平家伝説が語り継がれているロマンあふれる伝説の地として有名です。重要文化財である磐台寺観音堂（阿伏兎観音）、みろくの里、平家谷などの観光地があり、鞆の浦から阿伏兎岬にかけての島々は、名勝鞆公園に含まれ、瀬戸内海屈指の景勝地としても有名です。

この地域の産業は、工業については、天然の良港を活かし、古くから造船業を中心に栄え、現在も地域の基幹産業となっています。近年では造船技術の習得を目指す多くの外国人研修生が訪れ、国際色豊かな造船のまちとなりつつあります。また、もう一つの特徴的な産業として「ぶどう」があり、1999年（平成11年）には農業構造改善事業による「活気あふれるぶどうの里」が完成し、「ニューベリーA」や「ピオーネ」など需要の多い品種を中心に、県内最大の生産量を誇る産地となり、ぶどう産業が確立しました。商業面では、1989年（平成元年）の内海大橋開通を契機として草深地区に商業集積が拡大しています。

このように、沼隈町地域は、恵まれた自然条件や経済的・社会的特性を十分に活かし、都市機能の充実や良好な居住環境の整備により「自然にはぐくまれた 臨海都市」をイメージしたまちづくりを行う中で、福山市との有機的・一体的なまちづくりを進めていきます。

2 まちづくりの方向

沼隈町地域は、中核都市福山市が有する生活・文化・産業機能などの都市機能を補完する「沼隈半島南部の拠点」としてのまちづくりを基本としつつ、地域間交流機能の強化を図るとともに自然保護・環境保全とのバランスに配慮し、本地域が有する特性を活かし、住民だれもが真に住みやすさを実感でき、交流者が住んでみたくなるまちづくりを目指します。このため、次により、計画的・総合的なまちづくりを進めるものとします。

(1) みんなで創る舞台のあるまちづくり

住民と行政の協働により、みんなが主役となってまちづくりに参加することができる「舞台のあるまちづくり」を進めます。このため、地域住民がより住み良い地域を主体的につくることができるよう、小学校区を中心とした地域づくり活動を支援します。また、沼隈町中心部の拠点機能の強化とともに、都市計画との整合を図りながら土地の利活用を進め、魅力あふれる多彩な舞台のあるまちづくりを目指します。

(2) 支えあうあたたかな声のあるまちづくり

住民が健康で生きがいを持ち、住み良い地域となるよう、「声のあるまちづくり」を進めます。このため、子育てにおける周辺環境の整備や高齢者の生きがいと健康の増進を図り、だれもが住みやすく優しい地域社会の構築に努め、声を掛け合いお互いに支え合う温かなまちづくりを目指します。

(3) 未来への夢を育むまちづくり

子どもも大人も将来に大きな夢を持てるような、「夢を育むまちづくり」を進めます。このため、生きる力をはぐくみ、知徳体の調和のとれた人間形成を行う基本となる学校教育環境の充実を図ります。また、生きがいを持って人生を送ることができるよう生涯学習やスポーツ・レクリエーション活動機能の整備を推進します。

(4) 豊かな自然と共生する快いまちづくり

豊かな自然と共生し、いつまでも快適で安全な暮らしができる「環境のまちづくり」を進めます。このため、上・下水道などの都市基盤整備を促進するとともに、居住環境の向上を図るため、住宅や公園の整備を行い、更に消防防災体制の充実・強化や交通安全施設の整備などを進める中で、安全・安心なまちづくりに取り組みます。

(5) 交流と躍動のまちづくり

福山市中心部に近接している利便性と豊かな自然を活かしながら、人・モノ・情報が活発に行き交う、「交流と躍動のまちづくり」を進めます。このため、造船業を中心とする既存産業とともに、農林水産業の振興や、交流の活発化による地域経済の発展を目指します。また、これら産業の振興を始め、生活・通勤・通学・観光の面で重要な役割を担う交通体系の整備を進め、福山市地域との地域間交流の促進を図り、速やかな一体化を目指します。

3 沼隈町地域の地域別の整備方針

沼隈町地域の地域別の整備については、備後都市圏の中核都市福山市の中で、「沼隈半島南部の拠点」として、「自然にはぐくまれた 臨海都市」を目指したまちづくりを総合的かつ計画的に行うことが必要です。

また、沼隈町地域は、地形や機能等により自然共生ゾーンと地域中核ゾーン及び臨海ゾーンに分けることができ、それぞれのゾーンごとの整備方針は次のとおりです。

(1) 自然共生ゾーン

福山市藤江町地域から熊野町地域にかけて連たんし、沼隈町地域の北部から南部へ流下する山南川の上・中流域を中心に開かれたこのゾーンは、良好な自然と文化・歴史遺産が残されており、地域住民の生活と自然・文化が調和した農村地帯として位置付けられています。

したがって、このゾーンは、農業、林業基盤の整備を行うことにより、山南川と周囲の山林を活かしながら、自然の有する多面的機能を活用した「自然共生ゾーン」の形成を図ります。

(2) 地域中核ゾーン

幹線道路が交差するこのゾーンは、旧千年村と旧山南村が合併して以来、沼隈町地域の中心として発展してきたゾーンであり、現在では、各種公共施設、金融機関、商業施設の集積が進み、沼隈町地域の中核としての機能を有しています。しかし、荒廃農地などの未利用地が残るなど、計画的な土地利用対策が十分とはいえません。

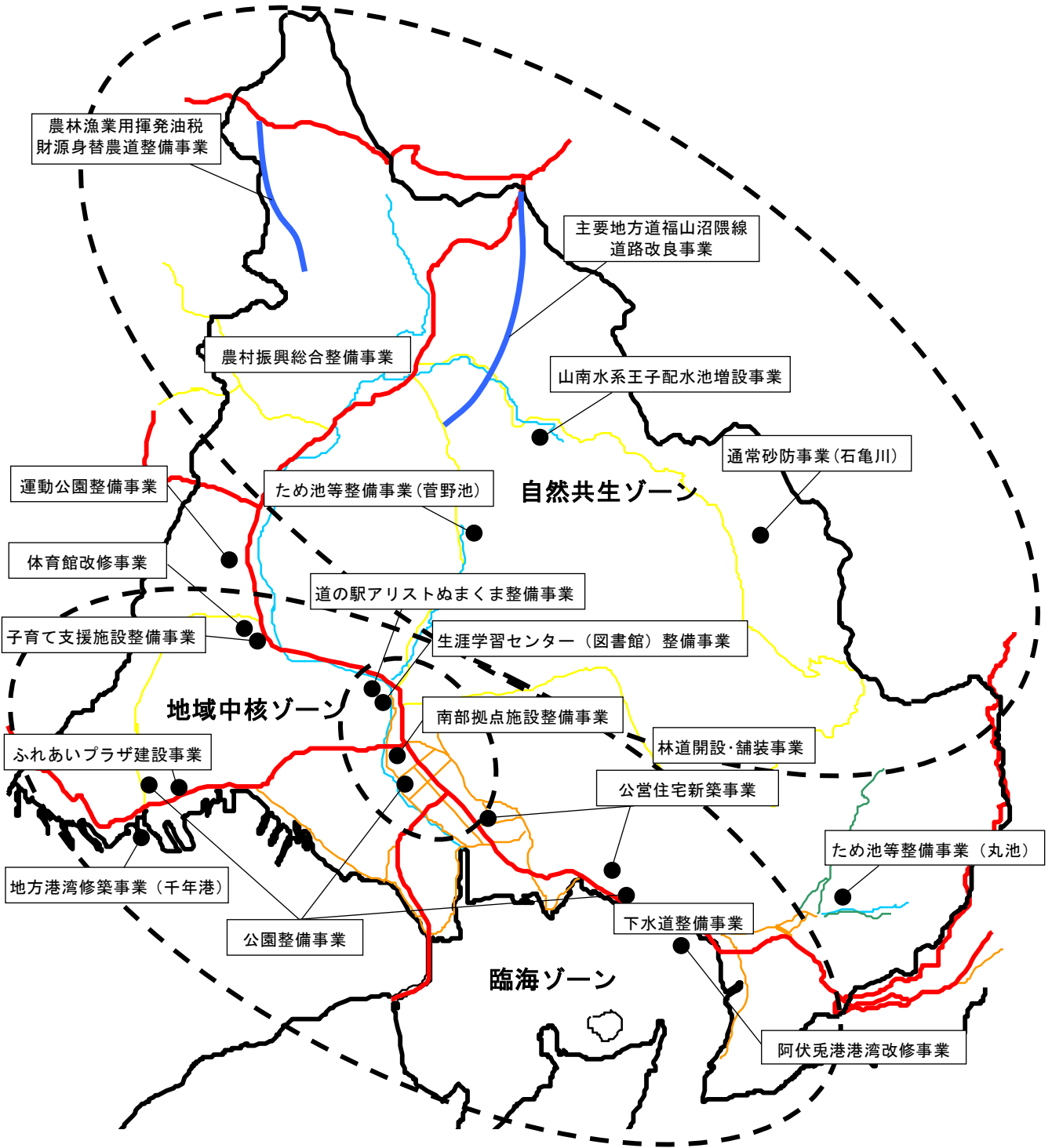
したがって、このゾーンは、都市計画との整合を図りながら、土地利用対策等の基盤整備を進めるとともに、沼隈半島南部の中核ゾーンにふさわしい施設の整備を行い、経済・生活・文化の機能の拡充を図ります。

(3) 臨海ゾーン

このゾーンは、福山市鞆町地域から尾道市浦崎町地域にかけて連たんし、山南川下流域と臨海地域で形成されています。西側沿岸部は造船業を中心とした工業の大規模な集積があり、沼隈町の産業の中心で、その背後から山側には住宅地が形成され、「職」「住」一体となった地域となっています。しかし、最近の自動車交通や物流時代に対応した道路や港湾機能の充実とともに、地域内道路や公園など居住環境の向上が課題となっています。また、東側には沿岸部から山側にかけて、日々瀬戸内海国立公園を望むことができるリゾート性の高い住宅地が形成されています。しかし、下水道や公園、住宅の整備が十分でなく、居住環境の向上とともに森林の保全や漁業の振興が課題となっています。

したがって、このゾーンは、産業基盤の充実に努めるとともに、美しい瀬戸内の自然環境の保全や活用を進め、都市機能の充実による魅力的な居住環境の整備を図ります。

地域別整備イメージ図



第4 まちづくり計画

沼隈町地域と福山市地域との速やかな一体化を促進し、地域住民の福祉の向上と地域の均衡ある発展を図るため、「まちづくりの基本方針」に基づき、次のような施策を展開します。

1 みんなで創る舞台のあるまちづくり

【現状と課題】

沼隈町地域には、現在 48 の地区があり、各地区で「地域づくり」の取組が行われています。「地域づくり」は、1983 年（昭和 58 年）に地区の独自性を活かし、「自らの地域は、自らが知恵を出し、汗を流し、住みよいものに創り育てる」を基本理念として始まりました。この事業は、地区を住み良いものにするため、住民の総意に基づいて事業計画を策定し、自らが事業を実施するという、住民の願いと活力を直接結びつけた事業で、住民主体での取組が続いてきました。

しかし、21 世紀を迎えた今日、人口の減少、少子高齢化、多様化する生活様式、情報化の進展など地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、これまでの手法と枠組みでは地域活動を維持・発展させることが困難な状況となっています。

また、草深中心部の役場周辺は、文化、情報、交流、商業機能が集積し、幹線道路網の結節点となっていることから、合併後も沼隈半島南部の住民生活や交流の拠点としての役割が期待され、その機能の強化が必要となっています。

次に、沼隈町地域の土地利用の現状は、近年農地や山林は減少傾向で、中でも田は 1985 年（昭和 60 年）以降の 18 年間に 30.4%減少しており、反対に宅地は 5.3%増加し、雑種地は 66.7%と大幅に増加するなど、農地の減少・荒廃の傾向が顕著になっています。このような状況は、耕作放棄による荒廃した農地の増加や市街化区域における宅地化の遅れとなって現れ大きな課題となっています。

【基本方針】

住民がそれぞれの自然、歴史、文化等の特色を活かした魅力ある地域を、主体的につくることができるよう、みんなで連帯して取り組む地域振興のための活動を支援します。

沼隈半島南部の行政・文化・情報・交流・商業の中心となる拠点的な施設の整備を行います。

土地利用については、市街地や集落周辺における宅地の基盤整備を進め、山林や耕作放棄地などの維持管理が不十分な土地については、適正な維持管理が行える有効な方策を検討します。

【施策展開の方向】

住民が、自分の地域に愛着と誇りを持ち、より住み良い地域をつくり育てることができるよう、地域振興のための基金を造成し、小学校区を単位とした地域づくり活動を推進します。

沼隈半島南部の行政・文化・情報・交流・商業の拠点としての魅力と機能を高めるため、沼隈町役場庁舎及び隣接するまちづくり総合センターの改修を行い、支所、住民交流、学区公民館機能等を併せ持つ南部拠点施設の整備を行います。

さらに、土地利用については、市街化区域でありながら宅地化が進んでいない草深中心地域・常石西部地域等について、道路の新設などにより、土地の利活用を促進し市街化を誘導します。

【具体的施策】

施策名	事業名
コミュニティの振興	地域づくり推進事業
沼隈半島南部拠点整備	南部拠点施設整備事業
市街化誘導道路整備	町道土手添1号線新設事業 町道土手添2号線新設事業 町道草深汐入1号線新設事業 町道金堀1号線新設事業 町道小林辻線新設事業 町道新涯6号線新涯橋新設・改良事業

2 支えあうあたたかな声のあるまちづくり

【現状と課題】

世界一の長寿国となった現在、健康であることの意義は以前にも増して高まっています。医療技術の進歩や介護体制の整備などの側面的な支援だけでは、健康を維持することは困難であり、一人一人が健康に対する自覚を高め「自分の健康は、自分で守り、自分でつくる」気運を高めていく必要があります。

沼隈町の高齢化率は、21.7%（2000年（平成12年）国勢調査）と福山市16.8%（同）を大きく上回っており、高齢者が健康で、生きがいのある老後を過ごすための施策が求められています。

少子化が進行する中で、少子化がもたらす社会への影響も深刻の度を増しています。さらに、家庭や地域における子育て機能の低下など、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりの推進が重要な課題となっています。

【基本方針】

福山市に比べて人口比率の高い高齢者の生きがいや、健康保持・増進のために必要な施設整備とともに、高齢者が安心して暮らせるよう特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実にも努め、高齢者福祉の増進を図ります。

子育てにおける周辺環境を整備し、安心して子どもを産み育てることができる社会を構築するため、少子化対策の推進を図ります。

【施策展開の方向】

高齢者の保養と健康の増進を図り、併せて地域社会の福祉の向上に役立つことを目的に、地域の拠点である「ふれあいプラザ」の建設に取り組みます。また、子育てについての情報提供や相談、親子の交流機会などを充実する場（スペース）を提供するため、「子育て支援施設」の整備を進めます。

【具体的施策】

施 策 名	事 業 名
高齢者福祉の充実	ふれあいプラザ建設事業
少子化対策・児童福祉の充実	子育て支援施設整備事業

3 未来への夢を育むまちづくり

【現状と課題】

学校教育は、将来の地域をつくり、社会を支える子どもたちにとって、豊かな心・確かな学力・力強い体力の調和のとれた人間形成に大きな役割を担っています。産業構造や情報伝達手段など多くの分野が高度化された社会では、様々な対応能力が求められますが、その基礎となる学力や体力を義務教育段階で確実に身につけ、集団生活の中で社会性を養い、人を大切にする心豊かな子どもたちを育てていく必要があります。沼隈町には、4つの小学校と2つの中学校がありますが、その施設は築後20年から30年を経過し、老朽化による教育環境の悪化が著しいため、施設の改修が課題となっています。

「まちづくりは人づくり」ともいわれ、生涯学習を通して地域に活気と潤いをもたらすことができるよう、各施設の整備と活用を図り、活動を活性化する必要があります。

スポーツ・レクリエーションは、体力の増進、健康保持、ルールの遵守精神の醸成、住民同士のコミュニティの形成、心身のリフレッシュなどに役立つものとして重要です。しかし、沼隈町地域のスポーツ・レクリエーションに対する意欲と多様化する志向を勘案すると、現状の施設では十分なものとはいえません。

【基本方針】

子ども達が安全で意欲的に学習ができるように教育環境の改善・整備を進めます。生涯学習施設の機能や設備の整備を進めるとともに、推進体制の充実を図る中で、より多くの地域間交流が促進されるよう施策の推進を図ります。

住民のスポーツ・レクリエーションに対する意欲の高まりや多様化する志向への対応とともに、地域間交流を促進するため、スポーツに親しむことができる環境づくりや、施設の整備を進めます。

【施策展開の方向】

老朽化により環境の悪化の著しい小・中学校の校舎、プール、体育館などの改修により教育環境の充実を図ります。

図書館機能の充実による生涯学習施設の整備や、公民館活動を推進するため、公民館の整備に取り組みます。

住民が自然に親しみながら、スポーツ・レクリエーション活動を行える場を提供するため、運動公園の整備を行うとともに、築後25年を経過し老朽化が進む体育館を改修し、機能の向上を図ることによりスポーツを通して福山市地域の住民との交流の促進を図ります。

【具体的施策】

施策名	事業名
学校教育の充実	小中学校建物大規模改造事業
生涯学習の振興	生涯学習センター(図書館)整備事業 公民館整備事業
社会体育の振興	運動公園整備事業 体育館改修事業

4 豊かな自然と共生する快いまちづくり

【現状と課題】

住宅は、私たちが暮していく上で基盤となるものです。沼隈町の公営住宅の多くは、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半までに建築されており、現在では老朽化が進み建替えや改修の必要な住宅が多くなってきています。

生活水準の向上や余暇時間の増大、高齢社会の到来などに伴い、身近で自然に触れ合える公園・緑地整備への要望が高まっていますが、2003 年(平成 15 年)3 月末の 1 人当たりの都市公園面積は、福山市が 6.8 m²であるのに対し、沼隈町は整備されておらず、大きな格差が生じています。また、沼隈町は瀬戸内海国立公園にも面しており、多島美の景観を活用した、自然と触れ合う場が求められています。

沼隈町の上水道は、福山市が給水している一部地域を除き、そのほとんどを沼田川県用水から受水しています。今後、下水道整備や浄化槽設置に伴う配水量の増加、更には緊急時にも迅速に対応できる体制と施設の整備が必要となっています。

また、下水道の整備は、1997 年度(平成 9 年度)から工事着手しましたが、現在も未供用で福山市の整備水準 64.9% (2003 年(平成 15 年) 3 月末現在)とは比較にならない状況です。さらに、市街地の浸水対策についても、草深・常石地区に設置しているポンプ施設の排水能力の向上や河川・排水路の改修が必要となっています。

斎場は、欠くことのできない基本的施設です。沼隈町の斎場は築後 20 年を経過し、老朽化が進んでいるため、計画的な改修が必要です。

消防・防災体制の整備は安全・安心な暮らしの基本的な要件であり、住民の生命、財産を守るため総合的な対応力が必要とされます。沼隈町地域においては、これまで常備消防と非常備消防が相互に連携を図り、消防・防災活動を行ってきましたが、消防車両や防火水槽、消防器具庫など消防施設の整備が不十分で、計画的な整備が必要です。また、このたび、東南海・南海地震防災対策推進地域の指定を受けたことにより、防災施設の充実や、自主防災組織の育成・強化が一層必要となります。

沼隈町における交通事故件数は、近年増加の傾向にあります。今後も、幹線道路の改良や自動車利用の拡大に伴う交通量の増加が予想され、総合的な交通安全対策が必要です。

【基本方針】

公営住宅の建設や改修を行うことにより、居住水準の向上を図ります。

公園については、地域特性に応じた公園を整備することにより、1 人当たり公園面積の水準の均衡を図るとともに、瀬戸内海の景観を活かした公園の整備にも努めます。

上水道については、安全でおいしい水を安定して供給するために、施設整備と効率的な給水体制の確立を図ります。

また、下水道、合併処理浄化槽など地域特性に応じた排水処理施設や、浸水対策の

ため、排水ポンプ等の雨水排水施設を整備するとともに、河川や排水路の改修を進め、生活環境の改善に努めます。

高齢化が進行する中で、斎場の設備を計画的に改修整備します。

消防・防災体制については、住民が安全で安心な暮らしができるように、消防・防災施設の計画的な整備を進めるとともに、砂防対策にも取り組みます。

交通事故ゼロを目指し、危険箇所の点検を進め、交通安全施設の整備を行います。

【施策展開の方向】

老朽化により住環境が悪化した公営住宅の建替えや改修を行うとともに、新たな住宅建設を行うことにより、住宅ニーズに対応した快適な住環境の整備を行います。

地域の特性に配慮した子どもの遊び場や高齢者の憩いの場となる公園を整備し、広く住民の交流と憩いの場、自然との触れ合いの場を提供します。また、多島美の景観を活用した公園の整備にも取り組みます。

水の安定的な供給を図るため、配水池などの上水道施設について計画的な整備に努めます。

また、快適な生活環境の確保と河川・水路汚濁の防止を図るため、公共下水道事業、小型合併処理浄化槽設置事業を推進します。さらに、市街地における浸水対策のため、草深・常石地区の雨水ポンプの整備を行い、河川や排水路の改修にも努めます。

老朽化が進行している斎場施設については、改修を施し、施設の維持に努めます。

消防・防災体制については、非常備消防体制の充実を図り、消防車両、防火水槽、消防器具庫の整備を進めるとともに、防災行政無線等の整備にも努めます。また、がけ崩れや地滑りなど危険箇所の点検・把握に努め、砂防事業等の推進を図ります。

交通事故の多発している場所や危険箇所、事故誘発箇所の点検を行い、カーブミラー・ガードレールなどの交通安全施設の整備を計画的に進めます。

【具体的施策】

施策名	事業名
公営住宅の整備	公営住宅新築事業 公営住宅大規模改修事業
公園整備	公園整備事業 国立国定公園等整備事業（後山園地）〔県事業〕
上下水道の整備と雨水対策	上水道中央監視システム更新事業 山南水系王子配水池増設事業 芦田川流域下水道事業〔県事業〕 流域関連公共下水道事業（汚水整備） 流域関連公共下水道事業（雨水整備）
斎場施設の整備	東山斎場リフレッシュ事業
消防・防災体制の整備	消防防災施設整備事業
砂防対策の推進	通常砂防事業（石亀川）〔県事業〕 急傾斜地崩壊対策事業
交通安全対策の推進	交通安全施設整備事業

5 交流と躍動のまちづくり

【現状と課題】

沼隈町地域の農業を取り巻く状況は、従事者の減少・高齢化及び後継者不足、生産基盤や農山村の生活環境も立ち遅れているなど多くの課題を抱えており、農道や排水路、ため池などの基盤整備が必要となっています。林業については、就業者の減少と高齢化の中で、森林の公益的機能の維持・向上の観点から造林、間伐を行っていますが、松枯れ被害が拡大しており、森林の保全と管理の適正化を図るため、林道などの施設の整備が求められています。水産業は、家族労働力に依存した零細規模であり、従事者の高齢化も進んでおり、加えて水産資源も減少傾向にあります。そのため、水産基盤の整備や漁場環境の改善が必要となっています。

また、沼隈町には、草深地区の大型店による商業集積とともに、中心部に都市と農村の交流施設として「道の駅アリストぬまくま」があります。沼隈半島における幹線道路利用者の休憩場所として、また、新鮮な野菜や魚を販売する自由市場やレストランなど関連施設には、毎日町内外から多くの利用者が訪れ、にぎわいを見せています。しかし、各施設の整備は十分とはいえず、今後も広域的な交流施設として活性化を図るためには、各施設の整備内容を充実させ集客力を高める必要があります。

沼隈町地域の幹線道路網は、主要地方道福山沼隈線、同鞆松永線、同沼隈横田港線、一般県道草深古市松永線及び主要な町道で構成されています。しかし、朝の通勤・通学時における福山方面への恒常的な交通渋滞が大変深刻な問題となっており、主要地方道福山沼隈線の（仮称）山南バイパスの1日も早い開通が望まれます。町道の道路改良率は、39.9%（2003年(平成15年)4月1日現在）で福山市の47.6%（同）に比べ低位な状況にあります。また、生活道路となる町道では、道路の幅員などが不十分で、歩道と車道の区分がなく通行上の安全性の確保や交通の円滑化が十分図られていません。

沼隈町には地方港湾千年港と同阿伏兎港があります。千年港は、尾道市と沼隈町を結ぶ定期旅客船の港となっていますが、小型船舶の安全な接岸と停泊が課題となっています。阿伏兎港においては、強風時の波対策など港湾の安全対策とともに、野積場や駐車場など港湾施設の機能の充実が課題となっています。

【基本方針】

農林水産業の生産性の向上を図るための基盤整備を進め、産業の活性化や合併後の整備水準の均衡を図ります。

「道の駅アリストぬまくま」の各施設の内容を充実させ、広域交流施設として活性化を図ります。

沼隈町地域と福山市地域との一体化や交流の促進、産業や観光の振興、更に住民生活の利便性や安全性の向上を図るため、道路網の整備を計画的に進めます。

また、港湾については、係留施設の整備や安全対策のための施設整備を計画的に進めるとともに、港湾施設の機能の充実にも努めます。

【施策展開の方向】

農地の保全や地域特性を活かした農業の振興，更に農山村の生活環境の整備を図るため，農道やため池，排水路等の基盤整備を行います。また，森林の管理・有効活用を図るため，林道や関連施設を整備します。水産業については，藻場の造成や築いその設置により漁業生産力を高めます。

道の駅アリストぬまくまについて，産地直送販売をしている自由市場や各施設の整備内容を充実させることにより，広域的な交流施設としての活性化を図ります。

主要地方道福山沼隈線の(仮称)山南バイパスの1日も早い完成を目指すとともに，沼隈町地域と福山市地域の一体化の促進と産業・観光の振興，住民生活における利便性や安全性の向上を図るため，道路網の整備を計画的に進めます。さらに，道路の舗装・維持にも努めます。また，県道の計画箇所以外の未改良部分については，長期的に整備促進を働き掛けます。

港湾について，千年港は防波堤や物揚場等の整備により小型船だまり係留施設の整備を進めます。阿伏兎港については，消波堤の新設等により港湾の安全対策の強化を図るとともに，野積場や駐車場の整備に取り組みます。

【具体的施策】

施 策 名	事 業 名
農業の振興	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 (福山沼隈) [県事業] 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 (福山沼隈2期) [県事業] ため池等整備事業(菅野池) [県事業] ため池等整備事業(丸池) [県事業] 農村振興総合整備事業 西ノ迫池改修事業 新池改修事業 双津池改修事業
林業の振興	林道白浜横倉線開設事業 林道奥組横倉線舗装事業 能登原生活環境保全林駐車場整備事業
水産業の振興	水産基盤整備事業 藻場造成事業 漁業経営構造改善事業 築いそ設置事業
交流施設の整備	道の駅アリストぬまくま整備事業 観光案内施設整備事業

<p>道路網の整備</p>	<p>《県道改良事業》〔県事業〕 主要地方道福山沼隈線道路改良事業 《町道改良事業》 町道黒瀬金江線改良事業 町道鏡線改良事業 町道横倉1号線改良事業 町道金堀土手添線改良事業 町道立割将木角線改良事業 町道奥組1号線改良事業 町道土橋1号線改良事業 町道奥組2号線改良事業 町道山南常石線改良事業 町道黒迫2号線改良事業 町道宮迫小坂線改良事業 町道鞆渡住江橋線改良事業 町道大迫谷出ノ迫線改良事業 町道松尾尻線改良事業 町道大越川谷線改良事業 町道矢野川線矢川上橋架替事業 町道山南常石線松尾尻橋架替事業 町道改良等事業</p>
<p>港湾の整備</p>	<p>地方港湾修築事業（千年港）〔県事業〕 阿伏兎港港湾改修事業</p>

第5 財政計画

(単位 百万円)

区分	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2
市	63,761	65,204	75,278	76,045	80,898	81,134	75,228	71,972	72,893	73,078	72,788	72,925	72,640	72,961	73,778	73,640	73,260	73,726
地方譲与税	1,653	2,541	3,544	5,150	1,960	1,888	1,771	1,781	1,760	1,688	1,628	1,526	1,558	1,575	1,571	1,563	1,593	1,594
地利割交付金	439	402	289	204	285	274	210	258	204	151	162	159	123	66	132	137	130	67
配当割交付金	-	70	121	202	234	92	69	63	152	107	241	445	339	211	295	238	304	273
株式等譲渡所得割交付金	-	65	182	161	147	35	46	35	27	27	357	241	307	116	276	172	251	138
法人事業税交付金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	521
歳	3,854	4,353	4,374	4,642	4,582	4,309	4,542	4,534	4,491	4,494	4,456	5,402	9,109	8,239	8,551	8,662	8,577	10,622
二丁目場利用税交付金	43	34	58	54	60	55	55	54	54	53	53	53	51	52	50	48	46	49
自動車取得税交付金	783	888	999	1,005	967	859	525	450	355	467	409	173	305	296	423	441	263	-
環境性能割交付金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	180
地方特例交付金	1,796	1,818	2,034	2,235	623	943	980	731	621	269	275	275	280	296	323	377	1,120	486
地方交付税	14,955	14,350	16,414	9,979	9,314	9,988	14,243	16,272	18,113	18,395	17,924	18,500	16,606	16,185	15,848	15,911	16,382	16,501
交通安全対策特別交付金	107	105	112	116	114	104	103	99	98	96	91	83	88	82	75	68	70	60
分担金及び負担金	1,108	1,335	1,475	1,571	1,679	1,800	1,764	1,748	1,843	2,007	2,080	2,135	2,087	1,786	1,508	1,288	754	450
使用料及び手数料	3,797	3,955	4,397	4,314	4,330	4,259	4,146	4,169	4,162	4,271	4,567	4,815	4,851	4,814	4,794	4,740	4,623	4,133
国庫支出金	19,110	15,253	15,798	15,388	16,268	15,991	27,510	27,422	26,066	25,377	25,841	27,169	28,467	30,089	29,625	29,123	31,329	31,465
県支出金	3,326	3,815	5,164	4,978	6,489	6,720	7,370	8,805	8,794	8,395	8,967	8,782	10,469	11,111	11,682	11,893	12,976	13,251
収入	299	608	729	429	829	349	411	373	276	850	496	761	599	593	436	455	396	636
財産収入	15	43	57	34	99	42	516	27	18	15	19	151	375	1,056	55	242	24	126
寄附金	6,105	7,301	6,534	7,471	10,750	5,638	6,425	7,181	4,560	4,681	5,165	6,540	4,901	6,402	5,757	7,604	1,309	1,115
繰入(越)金	8,382	8,603	8,364	7,947	8,206	10,255	10,081	11,339	11,160	10,326	9,356	8,923	6,050	4,369	2,471	2,326	2,944	2,967
諸収入	14,497	11,095	13,305	12,170	13,290	11,874	14,501	20,494	16,406	16,313	15,610	14,343	12,961	11,436	13,005	14,605	19,682	15,605
市	144,030	141,838	159,228	154,095	161,124	156,609	170,496	177,807	172,053	171,060	170,485	173,401	172,166	171,735	170,655	173,533	176,119	173,965
人件費	33,154	34,203	34,750	34,772	35,623	33,071	32,573	31,690	30,671	29,738	28,492	27,337	27,113	26,180	24,642	25,016	25,486	29,722
扶件費	19,647	22,160	24,681	26,005	28,169	29,265	31,449	38,928	41,113	41,782	42,307	44,383	44,479	46,025	46,493	46,407	49,926	50,809
歳	19,302	18,852	20,785	19,396	20,060	19,765	20,149	19,884	19,945	20,016	20,386	20,223	18,703	18,108	15,947	16,071	15,275	15,516
公債費	12,623	14,447	16,320	15,986	16,319	16,344	17,182	17,552	18,489	17,881	18,215	18,963	18,790	19,507	19,548	20,076	21,650	19,277
物件費	1,466	1,307	1,402	1,410	1,358	1,382	1,345	1,438	1,370	1,408	1,445	1,508	1,478	1,463	1,440	1,424	1,452	1,576
維持修繕費	9,244	9,845	10,219	10,411	10,666	11,596	18,259	12,469	11,159	16,559	17,027	15,488	15,707	15,296	14,784	15,316	15,136	14,310
補助費等	13,035	13,975	15,406	15,947	16,201	16,620	17,430	16,995	17,780	14,522	13,437	14,111	15,082	15,600	15,917	16,181	16,241	17,377
繰出金	4,669	2,695	6,403	2,461	1,866	3,177	1,875	3,954	1,568	1,528	3,837	5,739	4,995	3,551	3,935	2,144	3,486	264
積立金	6,518	7,506	7,145	7,120	7,569	8,109	9,408	10,625	10,188	9,260	8,427	8,828	5,947	4,340	2,459	2,318	2,748	2,723
投資・貸付金	20,094	13,428	17,970	16,510	19,796	13,857	16,366	20,676	16,540	13,767	13,479	12,119	14,139	16,440	19,713	20,972	24,719	22,391
出	139,752	138,418	155,081	150,018	157,627	153,186	166,036	174,211	168,823	166,461	167,052	168,699	166,433	166,510	164,878	165,925	176,119	173,965
歳	139,752	138,418	155,081	150,018	157,627	153,186	166,036	174,211	168,823	166,461	167,052	168,699	166,433	166,510	164,878	165,925	176,119	173,965

注1 2003年度(H15年度)から2018年度(H30年度)までは決算額。2019年度(R元年度)以降は計画額
 注2 2003年度(H15年度)は旧内海町・旧新市町合併後、2004年度(H16年度)は旧沼隈町合併後、2005年度(H17年度)以降は旧神辺町合併後の数値

(単位 百万円)

区 分	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
市					
地方譲与税	72,958	73,419	73,861	73,454	73,855
利子割交付金	1,594	67	1,594	67	1,594
配当割交付金	273	273	273	273	273
株式等譲渡所得割交付金	138	138	138	138	138
法人事業税交付金	889	946	1,003	1,003	1,003
地方消費税交付金	11,189	11,334	11,481	11,618	11,746
二ルフ場利用税交付金	49	49	49	49	48
自動車取得税交付金	-	-	-	-	-
環境性能割交付金	220	201	201	201	201
地方特例交付金	429	429	429	429	429
地方交付税	17,249	17,595	16,986	16,824	16,341
交通安全対策特別交付金	60	60	60	60	60
分担金及び負担金	420	423	416	417	406
使用料及び手数料	4,122	4,133	4,155	4,170	4,191
国庫支出金	32,368	33,331	37,754	34,871	30,529
県支出金	13,131	13,102	13,022	13,347	13,844
財産収入	389	389	389	389	389
寄附金	340	340	40	34	23
繰入(越)金	4,468	5,021	5,413	1,689	466
諸収入	2,944	2,936	2,936	2,931	2,928
市	18,947	17,422	21,500	19,671	17,536
入	182,244	183,202	191,767	183,229	176,067
歳					
人	29,463	29,207	29,217	29,439	29,559
扶	49,549	49,557	49,288	49,357	49,378
公	15,997	16,941	17,042	17,089	17,166
物	17,369	16,460	16,670	17,344	16,647
維	1,503	1,503	1,503	1,503	1,503
補	15,602	15,476	16,100	16,148	16,457
繰	18,607	19,792	18,818	19,329	19,621
出	447	447	147	147	2,033
積	2,781	2,737	2,696	2,700	2,689
立	30,926	31,082	40,286	30,173	21,014
出	182,244	183,202	191,767	183,229	176,067
経					
費					
計					
計					

注1 2003年度(H15年度)から2018年度(H30年度)までは決算額。2019年度(R元年度)以降は計画額

注2 2003年度(H15年度)は旧内海町・旧新市町合併後、2004年度(H16年度)は旧沼津町合併後、2005年度(H17年度)以降は旧神辺町合併後の数値

第6 事業費総括表

1. 施策別事業費総括表

単位：百万円

区 分	20 か年事業費	備 考
1 みんなで創る舞台のあるまちづくり	1,032	コミュニティの振興，沼隈半島南部拠点整備，市街化誘導道路整備
2 支えあうあたたかな声のあるまちづくり	80	高齢者福祉の充実 少子化対策・児童福祉の充実
3 未来への夢を育むまちづくり	1,669	学校教育の充実，生涯学習の振興， 社会体育の振興
4 豊かな自然と共生する快いまちづくり	4,823	公営住宅の整備，公園整備，上下水道の整備と雨水対策，畜場施設の整備，消防・防災体制の整備，砂防対策の推進，交通安全対策の推進
5 交流と躍動のまちづくり	4,233	農業の振興，林業の振興，水産業の振興，交流施設の整備，道路網の整備，港湾の整備
合 計	11,837	建設計画に計上する 20 か年の総事業費

2. 年度別事業費総括表

単位：百万円

年度	事業費	財源内訳			
		国・県支出金	地方債	その他	一般財源
2005 (H17)	1,418	296	854	1	267
2006 (H18)	1,422	325	971	14	112
2007 (H19)	1,157	222	866	10	59
2008 (H20)	1,469	344	1,029	17	79
2009 (H21)	1,001	254	692	18	37
2010 (H22)	1,136	436	580	105	15
2011 (H23)	754	201	505	32	16
2012 (H24)	896	219	633	30	14
2013 (H25)	719	171	517	25	6
2014 (H26)	560	110	416	26	8
2015 (H27)	248	13	223	12	0
2016 (H28)	176	3	164	9	-
2017 (H29)	138	16	116	6	-
2018 (H30)	99	1	93	5	0
2019 (R1)	128	-	122	6	-
2020 (R2)	102	-	97	-	5
2021 (R3)	141	-	134	-	7
2022 (R4)	63	-	60	-	3
2023 (R5)	110	-	104	-	6
2024 (R6)	100	-	95	-	5
合計	11,837	2,611	8,271	316	639

